

平成 26 年度事業方針

平成 26 年度文化の家事業は、地域コミュニティの再生のため、市民と積極的な連携によるまちづくりの推進を主要テーマと考えます。平成 25 年 4 月から行っている文化の家市民参画プロジェクトをはじめ、市民団体、教育機関との連携も強化します。また開館から 15 年間マスタープランに基づいて行ってきた質やオリジナリティを維持しながら、アートマネジメントのノウハウを市民とのまちづくりに活かします。これらを念頭に5つの事業を中心に展開します。

(1) 市民参画プロジェクト

1. 市民参加による話し合い（ワーキンググループ）
2. 住民参画支援事業（旧事業倶楽部事業）
3. ワークショップ、シンポジウム等
4. 舞台見学会・モニター制度

平成 25 年 4 月より始まったプロジェクト。WGは今後の文化の家の在り方など話し合いのプロセスや結果を内外に発信する。住民企画支援事業は、市民による具体的な企画制作実行を目的とする。まずは、ギャラリーコンサートや映像鑑賞会の一部を市民が関わる形で試行する。WSは市民が多く交流する場、そして見学会・モニター制度は市民が文化の家を知り、評価する場。

WG=ワーキンググループ WS=ワークショップ

(2) 市内団体が行う事業との連携・支援

1. ながくてアートフェスティバル（市内のアトリエ・ギャラリー開放、観光との連携）
2. 長久手“知”学（長久手の在住の知識人による座学）
3. 長久手応援ソング普及事業（広め隊、イベント関連、小中学校、保育園、児童館など）
4. アートデリバリー、ふくしであと（福祉施設関連事業所、在宅、共生ステーションなど）
5. マルシェ長久手（市内農家、JA、飲食店など）

市内の各施設や市民団体が事業に対し連携・支援する。市内の作家などでながくてアートフェスティバルは、ここ 2 年で 20 から 30 会場に増えた内容の充実化を図る。そのほかに長久手の知力（人材）を生かした長久手“知”学、coba と市民によりつくられた長久手応援ソングの普及と「広め隊」のサポート、福祉事業所と連携して高齢者や障害者と交流する「ふくしであと」、長久手の農家や飲食店が文化の家ギャラリーで軒を連ねる「マルシェ長久手」など、地域の魅力を再発見しこれらの事業を支援することでまちづくりのためのネットワークを強化する。

(3) 学校連携事業

であーと（小・中）、おいであーと（保育）、小学校招待公演、小学校巡回指導、小学校吹奏楽交流コンサート、吹奏楽フェスティバル（中・高・大・一般）、演劇ワークショップ

学校連携事業では、市内に多く在住する芸術家と子どもたちとの出会いの場を提供し、教育とアートの関わりを深める。鑑賞やクラブ活動のスキルアップだけでなく、学校間の交流の場も提供する（小学校金管バンド交流コンサート）。これらを PTA や学校関係者が立ち会える環境づくりを進める。

(4) 劇場間の連携

1. ジョイントフェスティバル 稲沢市、幸田町、西尾市など

演劇・音楽・海外招聘公演を県内の複数の劇場と共同で行う事業。地域の芸術家を支援し、かつ複数の劇場が連携することで制作面やコスト面で合理化を図る。平成 25 年度は 4 館が参加。長久手が先導的な立場で引き続き行う。

2. 音楽の壺（おんつぼ） 稲沢市、幸田町、多治見市、飛騨市、三重県など

県内外 14 の劇場が集まり、それぞれが企画を持ち寄り、情報やノウハウの交換、地元アーティストの紹介、劇場間の交流を図る事業。今回文化の家のオリジナル企画「こんにちは、アントン！」が多治見市で買い上げとなる。初の売上公演。

(5) オリジナリティの高い事業

◎おんぱく～音のテーマパーク（文化庁助成金採択事業）

◎劇団 座★NAGAKUTE（文化庁助成金採択事業）

◎ニューセンチュリーコーラスNAGAKUTE

文化の家は、この 15 年間に数々のオリジナリティの高い取り組みを行ってきた。「おんぱく」は、地元アーティストと 80 名のボランティアで創り上げる音楽テーマパークとして過去に 5 回開催し好評を博したが、今年は劇場から街全体に範囲を広げ、リニモ、アピタ、あぐりん村など各所でもイベントを展開する。また、名古屋芸術大学のアートマネジメントコースと連携し、アートマネジメントによる人材育成のノウハウを地域の文化リーダー育成に生かす試みを行う。座★NAGAKUTE とニューセンチュリーコーラス NAGAKUTE は、さらなる自立と充実した活動と発展をサポートする。